

平成22年5月31日

# 株主各位

〒617-8555  
京都府長岡京市東神足1丁目10番1号

## 株式会社 村田製作所

代表取締役社長 村田 恒夫

### 第74回定時株主総会招集ご通知

拝啓 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社第74回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、後記のいずれかの方法によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類（49ページ～52ページ）をご検討いただき、平成22年6月28日（月曜日）午後5時までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

敬 具

#### 記

- |         |   |
|---------|---|
| 1. 日 時  | 平成22年6月29日（火曜日）午前10時  |
| 2. 場 所  | 京都府長岡京市東神足1丁目10番1号 当本社 2階ホール<br>（末尾の「株主総会会場ご案内略図」をご参照ください。）   |
| 3. 目的事項 |   |
| 報告事項    | 1. 第74期（自 平成21年4月1日<br>至 平成22年3月31日）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに<br>会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件<br>2. 第74期（自 平成21年4月1日<br>至 平成22年3月31日）計算書類の内容報告の件 |
| 決議事項    |   |
| 第1号議案   | 剰余金の配当の件  |
| 第2号議案   | 取締役2名選任の件   |
| 第3号議案   | 監査役1名選任の件   |

以 上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.murata.co.jp>）に掲載させていただきます。

#### [郵送による議決権行使の場合]

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、前記の行使期限までに到着するようご返送ください。

#### [インターネットによる議決権の行使の場合]

当社指定の議決権行使ウェブサイト (<http://www.it-soukai.com/>) にアクセスしていただき、同封の議決権行使書用紙に表示された「議決権行使コード」及び「パスワード」をご利用のうえ、画面の案内に従って、議案に対する賛否をご入力ください。

インターネットによる議決権行使に際しましては、同封のご案内「インターネットによる議決権行使について」をご確認くださいませようお願い申し上げます。

なお、同一議案に対し書面及びインターネットにより重複して議決権を行使された場合において、当該議案に対する議決権の行使の内容が異なる場合には、インターネットによる議決権行使を有効なものとし、インターネットによる議決権行使が複数回行われた場合には、最終の行使を有効なものいたします。

## (添付書類)

# 事業報告

(自 平成21年4月1日)  
(至 平成22年3月31日)

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### 1) 主要な事業内容

当社グループは、主としてセラミックスを素材としてコンポーネント（コンデンサ・圧電製品など）、モジュール（通信モジュールなど）の電子部品並びにその関連製品を製造販売している電子部品メーカーで、無機・有機化学材料からセラミックス、電子部品に至るまで垂直統合型の技術開発と一貫生産を行っております。また、材料・製法・生産設備の開発を自ら行って、種々のノウハウを盛り込んだ特徴のある独自性の高い製品を生産し、A V機器、通信機器、コンピュータ及び関連機器、カーエレクトロニクス、家庭用電気機器等のさまざまな電子機器向けに販売しております。

### 2) 事業の経過及びその成果

#### ①経営成績

当期の世界の電子機器市場は、一昨年秋の金融危機以降に悪化した最終需要が、市場全体で行われていた大幅な在庫削減の反動もあり、春先から急速な回復をみせました。夏場以降も、各国政府が打ち出した景気刺激策の効果や中国をはじめとした新興国の需要拡大に支えられ、欧米のクリスマス商戦や中華圏の春節需要が好調に推移し、年間を通してみますと、主要な電子機器（携帯電話、パソコン、薄型テレビなど）の生産台数は前年度を上回る結果となりました。

市場別にみますと、携帯電話市場では、中国、インドといった新興国での新規加入者数の増加に加え、第3世代携帯電話やスマートフォンといった高機能機種への買い換え需要が拡大しました。パソコン市場では、新型のパソコン用OS（オペレーティングシステム）の発売の効果などで、ノートブックパソコンを中心に、個人向けの販売が伸びました。また、パソコン販売の好調と外付け需要の高まりにより、ハードディスクドライブの販売も伸びました。デジタルA V機器市場では、中国、日本などでの需要振興策と機器自体の低価格化により、ブラウン管テレビから薄型テレビへの買い換えが進みました。カーエレクトロニクス市場では、自動車の生産台数自体は前年度までの回復には至りませんでした。ハイブリッド車の普及拡大などから電装化が一層進みました。

このような市場環境のもと、当社は、春先からの需要の急激な増加に対応して、生産性の向上により生産能力を拡充するとともに、成長が続いている中国において販売・マーケティング・エンジニアリング機能の集約と強化を図り、顧客サービスの向上に努めました。また、製品価格の下落や厳しさを増すアジア同業との競争に対し、生産性改善や固定費削減などのコストダウン活動を着実に実行し、収益体質の強化を図りました。これらの結果、当社の当期の業績は、以下の通りとなりました。

#### <売上高>

売上高は、前期に比べ1.3%増の530,819百万円となりました。このうち、主たる事業である電子部品並びにその関連製品の製品売上高は528,813百万円となりました。

#### <営業利益>

当期は、製品価格が引き続き下落し、為替も対米ドルの平均レートで92円85銭となり前期に比べ7円69銭の円高になるなどの減益要因はありましたが、売上高が増加したことによる増益効果に加え、前期での赤字転落を受け策定した固定費削減などの収益改善策により経営体質の改善を図り、営業利益は26,730百万円の黒字（前期：営業損失16,287百万円）へ転換しました。

#### <税引前当期純利益、当期純利益>

税引前当期純利益は34,658百万円（前期：税引前当期純損失10,319百万円）、当期純利益は24,757百万円（前期：当期純利益3,588百万円）となりました。

## ②製品別の売上高概況

当期の製品別の売上高を前期と比較した概況は、以下のとおりであります。

(製品別の受注及び売上の状況)

製品等	期間	第74期（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）			
	区分	受注高	売上高		
		金額	金額	構成比	前期比
		百万円	百万円	%	%
コンデンサ		199,825	178,877	33.8	99.1
圧電製品		87,222	82,270	15.6	107.8
その他コンポーネント		104,699	98,222	18.6	95.1
コンポーネント計		391,746	359,369	68.0	99.8
通信モジュール		124,805	123,056	23.2	115.4
その他モジュール		48,877	46,388	8.8	84.4
モジュール計		173,682	169,444	32.0	104.9
合計		565,428	528,813	100.0	101.3

### <コンポーネント>

コンポーネントの売上高は、前期に比べ0.2%減の359,369百万円となりました。

### [コンデンサ]

この区分には、積層セラミックコンデンサ、円板型セラミックコンデンサ、トリマコンデンサが含まれます。

主力のチップ積層セラミックコンデンサは、主要な電子機器の生産台数の増加により、数量ベースでは大幅な増加となりましたが、金額ベースでは、製品価格の下落と円高の影響で微増となりました。

用途特化型品は、コンピュータ及び関連機器向けで、パソコン市場の拡大から、数量ベースでは増加となりましたが、製品価格下落の影響が大きく、金額ベースでは大きく減少しました。

その結果、全体の売上高は、前期に比べ0.9%減の178,877百万円となりました。

#### [圧電製品]

この区分には、表面波フィルタ、セラミック発振子、圧電センサ、セラミックフィルタ、圧電ブザーなどが含まれます。

表面波フィルタは、携帯電話やデータカードの生産台数の増加により、数量ベースでは大幅に増えましたが、製品価格の値下がりの影響から、金額ベースでは微減となりました。

セラミック発振子は、AV機器向けとカーエレクトロニクス向けは好調でしたが、それ以外の用途は振るわず、全体では若干の減少となりました。

圧電センサは、ハードディスクドライブの衝撃検知用センサとバックソナー向けの超音波センサが大きな伸びとなりました。

圧電スピーカは、携帯メディアプレイヤー向けで、ディーゼルエンジンの燃料噴射用アクチュエータは、欧州の自動車市場向けで、大幅に増加しました。

その結果、全体の売上高は、前期に比べ7.8%増の82,270百万円となりました。

#### [その他コンポーネント]

この区分には、EMI除去フィルタ、コイル、センサ、抵抗器、コネクタ、アイソレータなどが含まれます。

EMI除去フィルタは、通信機器向け、カーエレクトロニクス向けが増加しましたが、その他の用途が振るわず、全体では減少しました。

コイル、コネクタは、通信機器向けを中心に堅調に推移しました。

サーミスタは、冷蔵庫のコンプレッサ起動用とスマートフォン等のモバイル機器内の温度検知用が好調でした。

ジャイロセンサは、カーナビゲーション・システム向けは大幅な増加となりましたが、デジタルスチルカメラ、デジタルビデオカメラ向けが振るわず、全体では減少しました。

アイソレータは、データカード向けが伸びたものの、主な用途である携帯電話向けが振るわず、全体では大幅な落ち込みとなりました。

その結果、全体の売上高は、前期に比べ4.9%減の98,222百万円となりました。

## ＜モジュール＞

モジュールの売上高は、前期に比べ4.9%増の169,444百万円となりました。

### [通信モジュール]

この区分には、近距離無線通信モジュール、多層デバイス、回路モジュールが含まれます。

近距離無線通信モジュールは、無線LANモジュールが、携帯電話用、携帯メディアプレイヤー用で大幅に増加しました。

多層デバイスは、携帯電話、データカード向けが好調に推移しました。

回路モジュールは、携帯電話用の地上デジタルテレビチューナが大幅減となりましたが、通信機器用モジュールが大幅に増加しました。

その結果、全体の売上高は、前期に比べ15.4%増の123,056百万円となりました。

### [その他モジュール]

この区分には、電源などが含まれます。

電源は、カーナビゲーション・システム向けは大幅に増加しましたが、薄型テレビ、プリンタやコピー機といった事務機器向け、サーバー向けでは振るわず、全体では、大幅な落ち込みとなりました。

その結果、全体の売上高は、前期に比べ15.6%減の46,388百万円となりました。

## 3) 対処すべき課題

世界の電子機器市場は、一昨年秋の世界的な金融危機から脱し、携帯電話、パソコン、デジタルAV機器などの主要な機器の最終需要が再び拡大基調に入っており、当社の取り巻く事業環境は、市場の活況により改善しております。しかしながら、今回の景気の回復局面においては、従来とは異なる幾つかの市場構造の変化がみられます。

当社では、この市場構造の変化を見据え、平成22年度を初年度とする中期3カ年計画を策定し、実行することとしました。中期3カ年計画では、市場を3つのセグメント（新興国市場、中核市場、新規市場）でとらえ、その市場に応じた戦略を展開していきます。

まず、先進国の経済成長が鈍化する中で相対的に高い成長が見込まれる新興国では、実体経済の成長に伴って、中間所得層が急激に増加しています。拡大する中間所得層向けで売れ筋となる最終製品は、製品の普及を促すために、機器の低価格化が強く求められており、この新興国における低価格機器のボリュームゾーンが市場を牽引するという構造変化をもたらしています。新興国市場は、同業他社との競争激化で、部品価格の低下圧力が強い領域ですが、当社としては、生産技術の革新などの生産性改善や海外生産の拡大など、コスト削減に徹底的に取り組むことにより、価格競争力を強化して、拡大する需要を確実に取り込んでいきます。

その一方で、先進国では、電子機器の小型・薄型化や高機能化・多機能化がより一層進展し、先進国の市場は、今後も中核市場として、新しい需要創造の牽引役になり続けるとみています。この中核市場は、技術革新や新しい提案が常に求められる領域であり、当社としては、材料技術、プロセス技術、設計技術、生産技術といった要素技術の革新と垂直統合を図り、開発資源の重点配分による製品開発のスピードアップを進めることにより、顧客のニーズを先取りした付加価値の高い新製品をタイムリーに供給していきます。

さらに、自動車、環境・エネルギー、ヘルスケアなどエレクトロニクスに期待される分野が、新規市場として広がりをみせており、電子部品の需要のすそ野は着実に広がっていくものと期待されます。当社としては、これらの新規市場に対して、社内のみならず外部資源の活用も図りながら、新たな事業領域に進出することで、将来の成長性を確保することに努めていきます。

また、これらの中長期的に需要の拡大が期待できる市場に対して、当社は、積極的に生産能力の拡充を進めるとともに、販売体制の強化を図っていきます。

企業の社会的責任への取り組みにつきましては、当社は国内外での事業活動を「経済、環境、社会」の3側面からとらえ、それぞれの側面で企業としての責任を果たしていくための取り組みを進めております。また、コーポレート・ガバナンスに関し、会社の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備に関する基本方針を定め、すべてのステークホルダーに配慮しつつ、経営管理組織・体制を整備し、経営効率の向上、経営監視機能の強化、法令遵守の徹底に取り組んでおります。

#### 4) 設備投資の状況

当社グループは当期に、総額22,868百万円の設備投資（金額に消費税等は含まれておりません）を行いました。

主な内容は、当社及び当社子会社における生産設備の増強・合理化等12,947百万円、研究開発用設備の増強3,710百万円、土地及び建物取得1,838百万円であります。

なお、生産能力に著しい影響を及ぼす除却、売却等はありません。

#### 5) 財産及び損益の状況

##### ①企業集団の財産及び損益の状況

(単位：百万円、%)

項目	第 71 期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)		第 72 期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)		第 73 期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		第 74 期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比
売上高	566,805	111.4	631,655	111.4	523,946	82.9	530,819	101.3
税引前当期純利益(△損失)	118,003	103.2	121,830	103.2	△10,319	—	34,658	—
当期純利益	71,309	108.6	77,413	108.6	3,588	4.6	24,757	690.0
総資産	1,014,965	101.5	1,030,349	101.5	909,327	88.3	928,790	102.1
純資産	822,893	102.6	844,230	102.6	784,342	92.9	800,857	102.1
1株当たり当期純利益	円 銭 321 29	—	円 銭 349 09	—	円 銭 16 48	—	円 銭 115 35	—
自己資本比率	% 81.1	—	% 81.9	—	% 86.3	—	% 86.2	—

(注) 1. 当社の連結計算書類は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。

2. 1株当たり当期純利益は、米国の「財務会計基準審議会（FASB）会計基準書（ASC）260（1株当たり利益）」（旧FASB基準書第128号「1株当たり利益」）に基づき算出しております。

3. 百万円単位の記載金額は、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

②当社の財産及び損益の状況

(単位：百万円、%)

項目	第 71 期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	第 72 期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	第 73 期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第 74 期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)			
	金額	金額 前期比	金額 前期比	金額 前期比			
売上高	490,642	530,866 108.2	436,625 82.2	459,357 105.2			
経常利益	60,388	56,419 93.4	8,056 14.3	18,598 230.9			
当期純利益	44,836	43,442 96.9	5,068 11.7	16,311 321.8			
総資産	535,647	529,226 98.8	528,987 100.0	576,508 109.0			
純資産	428,931	433,234 101.0	398,826 92.1	399,467 100.2			
1株当たり 当期純利益	円 銭 202 01	円 銭 195 91	—	円 銭 23 27	円 銭 76 00	—	
自己資本比率	% 80.1	% 81.9	—	% 75.4	% —	% 69.3	—

(注) 百万円単位の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 6) 主要拠点等

### ①当社の主要な営業所及び工場等

本 社 (京 都 府 長 岡 京 市)  
東 京 支 社 (東 京 都 渋 谷 区)  
八 日 市 事 業 所 (滋 賀 県 東 近 江 市)  
野 洲 事 業 所 (滋 賀 県 野 洲 市)  
横 浜 事 業 所 (横 浜 市 緑 区)  
長 岡 事 業 所 (京 都 府 長 岡 京 市)  
営 業 所  
仙 台 (仙 台 市 宮 城 野 区)  
大 宮 (さいたま市大宮区)  
西 東 京 (東 京 都 立 川 市)  
長 野 (長 野 県 安 曇 野 市)  
静 岡 (浜 松 市 中 区)  
中 部 日 本 (名 古 屋 市 名 東 区)  
神 戸 (神 戸 市 中 央 区)  
岡 山 (岡 山 市 北 区)  
九 州 (福 岡 市 博 多 区)

### ②主要な子会社

株式会社福井村田製作所 (福 井 県 越 前 市)  
株式会社出雲村田製作所 (島 根 県 簸 川 郡 斐 川 町)  
株式会社富山村田製作所 (富 山 県 富 山 市)  
株式会社小松村田製作所 (石 川 県 小 松 市)  
株式会社金沢村田製作所 (石 川 県 白 山 市)  
株式会社岡山村田製作所 (岡 山 県 瀬 戸 内 市)  
Murata Electronics North America, Inc. (アメリカ合衆国)  
Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd. (シンガポール)  
Murata Company Limited (中華人民共和国)  
Murata (China) Investment Co., Ltd. (中華人民共和国)  
Murata Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd. (中華人民共和国)

## 7) 使用人の状況

### ①企業集団の使用人の状況

使 用 人 数	
当 期 末	前 期 末 比 増 減
人 34,090	人 659

(注) 使用人数には、臨時雇用者・パート・嘱託者(943人)、当社グループ外への出向者(19人)は含めておりません。

### ②当社の使用人の状況

使 用 人 数		平 均 年 齢	平 均 勤 続 年 数
当 期 末	前 期 末 比 増 減		
人 6,916	人 221	歳 36.4	年 11.7

(注) 使用人数、平均年齢及び平均勤続年数には、臨時雇用者・パート・嘱託者(156人)、及び子会社等への出向者(868人)は含めておりません。  
 なお、子会社等からの出向者は含めております。

## 8) 重要な子会社の状況

### ①重要な子会社（平成22年3月31日現在）

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
株式会社福井村田製作所	百万円 300	100 %	コンポーネント（コンデンサ）及びモジュール（通信モジュール）の製造
株式会社出雲村田製作所	430	100	コンポーネント（コンデンサ）の製造
株式会社富山村田製作所	450	100	コンポーネント（圧電製品、その他コンポーネント）の製造
株式会社小松村田製作所	300	100	モジュール（通信モジュール、その他モジュール）の製造
株式会社金沢村田製作所	480	100	コンポーネント（圧電製品）の製造
株式会社岡山村田製作所	480	100	コンポーネント（コンデンサ）及びモジュール（通信モジュール）の製造
Murata Electronics North America, Inc.	US\$ 千 14,406	100	当社及び子会社の製品の販売
Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.	S\$ 千 4,000	100	コンポーネント（コンデンサ）の製造販売並びに当社及び子会社の製品の販売
Murata Company Limited	HK\$ 千 100	100	当社及び子会社の製品の販売
Murata (China) Investment Co., Ltd.	US\$ 千 120,000	100	中華圏でのマーケティング、エンジニアリング活動、中国販売会社の統括管理
Murata Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.	US\$ 千 23,400	100(注)	当社及び子会社の製品の販売

(注) 間接所有を含む比率であります。

### ②企業結合の成果

上に掲げた重要な子会社11社を含む連結子会社は66社であります。企業結合の成果につきましては、「1. 企業集団の現況に関する事項 2) 事業の経過及びその成果」に記載のとおりであります。

## 9) 借入先

借入先	借入残高
Mizuho Corporate Bank (China), Ltd.	2,489
Sumitomo Mitsui Banking Corporation (China) Limited	2,050
Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ (China), Ltd.	937
その他	13
計	5,489

## 2. 株式に関する事項

- 1) 発行可能株式総数 581,000,000株 (単元株式数 100株)
- 2) 発行済株式の総数 225,263,592株 (自己株式 10,633,763株を含む)
- 3) 株主数 75,161名
- 4) 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	10,757	5.0
日本生命保険相互会社	9,685	4.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	9,436	4.4
ジェービー モルガン チェース バンク 380055	9,401	4.4
明治安田生命保険相互会社	5,610	2.6
株式会社京都銀行	5,260	2.5
株式会社滋賀銀行	3,551	1.7
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	3,442	1.6
三井住友海上火災保険株式会社	3,015	1.4
株式会社みずほコーポレート銀行	3,000	1.4

(注) 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式 (10,633千株) を除いて計算しております。

### 3. 会社の新株予約権等に関する事項

当期末日に当社役員が保有している新株予約権の状況

回 次		第 3 回	第 4 回
発行決議の日		平成16年6月29日	平成17年6月29日
新株予約権の数		327個	661個
新株予約権の目的となる株式の種類と数		普通株式 32,700株	普通株式 66,100株
新株予約権の発行価額		無償	無償
新株予約権の行使時の払込金額		5,789円	5,686円
新株予約権の行使期間		平成18年8月1日から 平成22年7月31日まで	平成19年8月1日から 平成23年7月31日まで
役員 の 保有 状況	取締役 (社外取締役を除く)	保有者数 2名 保有数 22個 目的である株式の数 2,200株	保有者数 6名 保有数 55個 目的である株式の数 5,500株
	社外取締役	—	—
	監査役	保有者数 1名 保有数 5個 目的である株式の数 500株	保有者数 1名 保有数 5個 目的である株式の数 500株
新株予約権の主な行使条件		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新株予約権を有する者（以下、新株予約権者という）は、当社業務執行取締役、執行役員及び幹部社員並びに当社会社の業務執行取締役及び幹部社員たる地位を失った後も、新株予約権を行使できるものとしております。</li> <li>2. 新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとしております。</li> <li>3. 新株予約権のその他の行使の条件は、第3回新株予約権割当契約の定めに従うものとしております。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新株予約権を有する者（以下、新株予約権者という）は、当社業務執行取締役、執行役員及び幹部社員並びに当社会社の業務執行取締役及び幹部社員たる地位を失った後も、新株予約権を行使できるものとしております。</li> <li>2. 新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとしております。</li> <li>3. 新株予約権のその他の行使の条件は、第4回新株予約権割当契約の定めに従うものとしております。</li> </ol>

(注) 第3回及び第4回新株予約権の役員の保有状況のうち監査役に関する部分は、監査役就任以前に、幹部社員たる資格で取得した新株予約権の保有状況を記載したものであります。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### 1) 取締役及び監査役の状況（平成22年3月31日現在）

役名	地位及び担当	氏名	重要な兼職の状況
取締役社長	代表取締役	村田恒夫	株式会社福井村田製作所 Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd. 財団法人村田学術振興財団 取締役社長(代表取締役) ダイレクター
取締役副社長	代表取締役	藤田能孝	Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd. Murata (China) Investment Co., Ltd. 理事長 ダイレクター 董事長
取締役	上席常務執行役員 知的財産部・品質保証部・故障解析センタ・化学物質管理推進室・安全保障輸出管理室担当	荒井晴市	
取締役	常務執行役員 デバイス事業本部長	井上純	株式会社富山村田製作所 取締役社長(代表取締役)
取締役	常務執行役員 技術・事業開発本部長 同本部次世代技術研究所長	家木英治	
取締役	常務執行役員 広報部・総務部・法務部・人事部・健康安全推進室・環境管理部担当 生産本部長	牧野孝次	
取締役		棚橋康郎	横河電機株式会社 株式会社インターネットイニシアティブ 社外取締役
取締役		吉原寛章	一橋大学大学院国際企業戦略研究科 Hitachi Global Storage Technologies Netherlands B.V. 特任教授 マネージングダイレクター
監査役	常勤監査役	中山素彦	
監査役	常勤監査役	伴野国三郎	
監査役		平岡哲也	
監査役		川田剛	税理士 明治大学大学院 グローバル・ビジネス研究科 教授 社外監査役
監査役		山田英暉	ボストン・サイエンティフィック・ジャパン株式会社

- (注) 1. 取締役 棚橋康郎、吉原寛章の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役 平岡哲也、川田 剛、山田英暉の各氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 当社は、取締役 棚橋康郎、吉原寛章、監査役 平岡哲也、川田 剛、山田英暉の各氏を、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。
4. 監査役 中山素彦氏は当社で財務及び経理業務の経験を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
5. 監査役 川田 剛氏は税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
6. 取締役 棚橋康郎、吉原寛章の両氏及び監査役 川田 剛氏が兼職している法人等と当社との間には特別の関係はありません。
7. 当社の執行役員は14名で、上掲の執行役員を兼務する取締役の他に10名の執行役員がおります。

## 2) 取締役及び監査役の報酬等の額

区 分	人 数	報 酬 等 の 額
	人	百万円
取 締 役	10	321
監 査 役	5	68
合 計	15	389

- (注) 1. 上記の人数には、平成21年6月26日開催の第73回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名を含んでおります。
2. 上記の取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 上記のうち、社外役員5名に対する報酬等の総額は、43百万円であります。
4. 株主総会決議に基づく報酬限度額（年額）は、取締役600百万円（平成19年6月定時株主総会決議）、監査役80百万円（平成10年6月定時株主総会決議）であります。ただし、執行役員を兼務する取締役の使用人分給与及び賞与相当額は含みません。また、業務上の必要性により転居しなければならない場合に限り、当社所定の基準に基づく社宅使用料を徴収した上で、業務を執行する支社・事業所等へ通勤可能な社宅を提供するものとし、この場合に会社が負担する金銭に非ざる報酬の限度額は200百万円（平成15年6月定時株主総会決議）であります。

### 3) 社外役員の主な活動状況

区 分	氏 名	主 な 活 動 状 況
社外取締役	棚 橋 康 郎	当期開催の取締役会14回のうち13回に出席し、必要に応じ、経営者としての高い見識と豊富な経験から発言を行っております。
	吉 原 寛 章	当期開催の取締役会14回のすべてに出席し、必要に応じ、グローバル企業への豊富なコンサルティング経験と会計の専門家としての高い見識から発言を行っております。
社外監査役	平 岡 哲 也	当期開催の取締役会14回、監査役会16回のすべてに出席し、必要に応じ、財政金融関係分野の専門的知識並びに経営者としての経験から発言を行っております。
	川 田 剛	当期開催の取締役会14回のうち12回に、監査役会16回のうち14回に出席し、必要に応じ、主に税務の専門家としての見地と豊富な経験から発言を行っております。
	山 田 英 暉	当期開催の取締役会14回、監査役会16回のすべてに出席し、必要に応じ、金融関連分野及び経営者としての豊富な経験から発言を行っております。

(注) 当期においては、会社法第370条に定める取締役会の書面決議を1回実施しておりますが、上記の回数には含めておりません。

### 4) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の上限は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額相当額であります。

## 5. 会計監査人に関する事項

### 1) 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

### 2) 当期に係る会計監査人の報酬等の額

	区 分	報 酬 等 の 額
①	会計監査人としての報酬等	百万円 106
②	当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	108

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、①の金額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である、海外税務当局向け報告書作成業務についての対価を支払っております。
3. 当社の重要な子会社のうち、Murata Electronics North America, Inc.、Murata Electronics Singapore (Pte.)Ltd.、Murata Company Limited、Murata (China) Investment Co., Ltd. 及びMurata Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.は、当社の会計監査人以外の公認会計士または監査法人（外国におけるこれらの資格に相当する資格を有するものを含む。）の監査（会社法または金融商品取引法（これらの法律に相当する外国の法令を含む。）の規定によるものに限る。）を受けております。

### 3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当し、解任を相当と認めるときは、当該会計監査人を解任いたします。

また、当社は、会計監査人の解任または不再任を妥当または相当と認めるときは、監査役会の請求によりまたはその同意を得て、当該会計監査人の解任または不再任を株主総会の目的といたします。

## 6. 会社の業務の適正を確保するための体制

当社は、コーポレート・ガバナンスに関し、経営上の最も重要な課題の一つとして位置付け、会社の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備に関する基本方針を、取締役会において以下のとおり定めております。

これに基づき、すべてのステークホルダーに配慮しつつ、経営管理組織・体制を整備し、経営効率の向上、経営監視機能の強化、法令遵守の徹底に取り組んでおります。

### 1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①社外取締役を選任し、取締役会の業務執行の決定及び取締役の職務の執行の監督機能を強化します。
- ②内部統制システムの整備状況と運用状況を評価する委員会組織を設置し、内部統制システムの維持並びに継続的改善を図ります。
- ③企業の社会的責任を果たすため、コンプライアンス、リスク管理、環境等に関わる各種の委員会組織を設置するとともに、これら組織を統括する委員会組織を設置し、整合性の取れた全社的なCSR経営を継続的かつ計画的に推進します。
- ④CSR活動の推進を担当する組織を設置します。当該組織は、CSRに関わる委員会組織と連携し、CSRの社内への浸透と社外への一元的対応を行います。
- ⑤取締役、執行役員及び使用人が法令及び定款に従い、より高い倫理観に基づいて事業活動を行うため、企業倫理規範・行動指針及びコンプライアンスに関する規定を制定し、周知徹底するとともに、制度の整備及び遂行を図ります。
- ⑥コンプライアンスに関する問題を適切に処理するため、通報受付窓口を社内・社外に設置するとともに、通報者に不利益が生じないよう措置を講じます。
- ⑦反社会的な活動や勢力には毅然として対応し一切関係を持たないこと、反社会的勢力等から不当な要求を受けた場合には金銭等による解決を図らないことを企業倫理規範・行動指針に明記し、当該規範・指針に基づき適切に対応します。
- ⑧独立した内部監査部門を設置し、内部統制システムの有効性を評価・モニタリングします。

## 2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ①取締役会等の議事録、稟議書その他の取締役の職務の執行に係る重要な文書は、所定の社内規定に基づき、保存し、取締役及び監査役が適宜閲覧できるようにします。
- ②文書の保存及び管理を統括する組織を設置します。当該統括組織は、文書の保存及び管理に関する基本的な事項を社内規定に定め、前項に掲げる文書が適切に保存及び管理されるよう全社的な指導を行います。
- ③会社情報の適時開示の必要性及び開示内容を審議する会議体を設置し、会社情報を適時適切に開示します。

## 3) 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- ①各業務機能を主管する部門ごとにリスク管理を行います。
- ②リスク管理に関する委員会組織において、全社的なリスク管理体制・施策等の審議を行うとともに、事業活動に関係するさまざまなリスクへの対応を検討・実施・推進します。
- ③全社的なリスク管理を担当する組織を設置します。当該組織は、リスク管理に関する規定を整備し、リスクの把握、評価、対応等に関し、各業務機能を主管する部門における進捗状況についてモニタリング等を通じて指導・提言を行います。

## 4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①長中期の方針、並びにこれに基づく単年度の方針、予算及び実行計画を策定し、それらの進捗管理及び達成状況の確認を行います。
- ②執行役員制度を導入し、経営方針及び重要な業務執行の意思決定と日常の業務執行とを区分することで、監督機能と業務執行機能を強化します。
- ③適正な意思決定を行うため、所定の社内規定に定めた事項に関する決裁は、IT（情報技術）を活用した稟議手続により関係する取締役、執行役員、重要な使用人の審議を経て行うこととします。
- ④取締役会、代表取締役の意思決定を補佐する審議機関として、役付取締役及び取締役・役付執行役員で構成する経営執行会議を設置します。経営執行会議は、所定の社内規定に定めた事項について、審議し、また報告を受けることとします。
- ⑤業務執行の状況に関する各種の情報を、定期的にあるいは随時、関係する取締役、執行役員及び使用人に提供し、共有する仕組みを、ITを活用して構築します。

## 5) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ①当社は、当社グループにおいて、経営の基本理念としての社是を共有するとともに、企業倫理規範・行動指針及びコンプライアンスに関する規定を周知徹底します。
- ②当社グループにおいて、意思決定に関する規定及び手続を定めます。これらに基づき子会社と、子会社の事業運営について協議し、また、当社グループの事業運営に関する各種情報を共有します。
- ③当社の各業務機能を主管する部門は、業務が適正かつ効率的に行われるよう各業務の枠組み、処理手続、判断基準を定めるとともに、子会社に対し、必要に応じて適切な指導を行います。
- ④内部監査部門は、当社グループにおける業務が法令、社内の規定等に基づいて、適正かつ効率的に行われていることを評価・モニタリングします。
- ⑤各子会社が、それぞれの事業内容・規模に応じて適切な内部統制システムを整備、運用するよう指導します。

## 6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及びその使用人の取締役からの独立性に関する事項

- ①監査役がその職務を補助するため監査役室を設置し、相当数の専任の使用人を配置します。
- ②監査役室の使用人は、取締役の指揮・命令を受けないこととします。また監査役室の使用人の人事に関する事項について、取締役は監査役と協議し、同意することとします。

## 7) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- ①取締役、執行役員及び使用人は、監査役に対して、経営執行会議等の議事録・資料、稟議書、業績等の定期報告文書を提出し、また、企業倫理規範・行動指針に違反する恐れのある事実、リスク及びリスク管理の状況、内部通報の状況と通報内容、並びに外部公的機関等による監査の結果について報告します。
- ②前項のほか、取締役、執行役員及び使用人は、監査役の求めがあるときは、随時求められた文書等の提出あるいは報告を行います。

8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ①取締役は監査役が重要会議に出席できる環境を整備します。
- ②取締役及び使用人は監査役会が毎年策定する「監査計画」に従い、実効性ある監査が実施できるよう協力します。
- ③内部監査部門は監査役との連携に努めます。
- ④取締役及び使用人は監査役と会計監査人との連携に際し、監査役の求めに応じ、協力します。
- ⑤代表取締役等は監査役と定期的に会合を持ち、情報交換に努めます。
- ⑥取締役及び使用人は、監査役が弁護士、会計監査人に対し、意見聴取する際には、監査役の求めに応じ、協力します。

## 連結貸借対照表

(平成22年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資 産 の 部)</b>	<b>(928,790)</b>	<b>(負 債 の 部)</b>	<b>(127,933)</b>
<b>流動資産</b>	<b>388,141</b>	<b>流動負債</b>	<b>78,746</b>
現金及び預金	66,688	短期借入金	5,476
短期投資	63,986	支払手形	777
有価証券	32,793	買掛金	28,861
受取手形	2,088	未払給与及び賞与	20,351
売掛金	109,942	未払税金	3,226
貸倒引当金	△1,021	未払費用及び その他の流動負債	20,055
たな卸資産	89,216	<b>固定負債</b>	<b>49,187</b>
繰延税金資産	17,378	長期債務	11
前払費用及び その他の流動資産	7,071	退職給付引当金	46,496
<b>有形固定資産</b>	<b>285,265</b>	繰延税金負債	1,812
土地	43,829	その他の固定負債	868
建物及び構築物	272,070	<b>(資 本 の 部)</b>	<b>(800,857)</b>
機械装置及び工具器具備品	570,701	<b>資本金</b>	<b>69,377</b>
建設仮勘定	12,162	<b>資本剰余金</b>	<b>102,388</b>
減価償却累計額	△613,497	<b>利益剰余金</b>	<b>698,613</b>
<b>投資及びその他の資産</b>	<b>255,384</b>	<b>その他の包括損失累計額</b>	<b>△21,447</b>
投資	207,958	有価証券未実現損益	3,132
繰延税金資産	9,654	年金負債調整勘定	3,167
その他の固定資産	37,772	デリバティブ未実現損益	△300
		為替換算調整勘定	△27,446
		<b>自己株式(取得原価)</b>	<b>△48,074</b>
<b>合 計</b>	<b>928,790</b>	<b>合 計</b>	<b>928,790</b>

## 連結損益計算書

(自 平成21年 4月 1日  
至 平成22年 3月 31日)

(単位：百万円)

科 目	金	額
<b>売 上 高</b>		<b>530,819</b>
<b>営 業 費 用</b>		
売 上 原 価	382,877	
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	79,563	
研 究 開 発 費	41,649	504,089
<b>営 業 利 益</b>		<b>26,730</b>
<b>その他の収益 (△費用)</b>		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	3,254	
支 払 利 息	△67	
為 替 差 益	1,443	
そ の 他 ( 純 額 )	3,298	7,928
<b>税引前当期純利益</b>		<b>34,658</b>
<b>法 人 税 等</b>		
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	7,293	
法 人 税 等 調 整 額	2,608	9,901
<b>当 期 純 利 益</b>		<b>24,757</b>

## 連結株主持分計算書

(自 平成21年 4月 1日)  
(至 平成22年 3月 31日)

(単位：株、百万円)

項 目	発行済普通 株式総数	資 本 の 部				
		資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	その他の包括損失 累計額	自 己 株 式
平成21年 3月 31日現在残高	225,263,592	69,377	102,388	692,099	△31,462	△48,060
自 己 株 式 の 取 得						△14
当 期 純 利 益				24,757		
現金配当額(1株当たり85.00円)				△18,243		
そ の 他 の 包 括 利 益					10,015	
平成22年 3月 31日現在残高	225,263,592	69,377	102,388	698,613	△21,447	△48,074

## 連 結 注 記 表

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲及び持分法の適用に関する事項

#### 1) 連結子会社の数及び主要な会社名

66社 ((株)福井村田製作所、(株)出雲村田製作所、(株)富山村田製作所、(株)小松村田製作所、(株)金沢村田製作所、(株)岡山村田製作所  
Murata Electronics North America, Inc.、Murata Electronics Singapore (Pte.)  
Ltd.、Murata Company Limited、Murata (China) Investment Co., Ltd.、Murata  
Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd. 他)

#### 2) 非連結子会社の数

該当なし (うち持分法適用会社 該当なし)

#### 3) 関連会社の数

該当なし (うち持分法適用会社 該当なし)

### 2. 連結の範囲及び持分法の適用の異動状況

連結子会社 (除外) 9社

Murata Amazonia Industria E Comercio Ltda.  
Murata Electronica Do Brasil Ltda.  
Murata Manufacturing (UK) Limited  
Murata Electronics Switzerland AG  
Murata Power Solutions グループ会社5社

### 3. 重要な会計方針

#### 1) 連結計算書類の作成基準

当社の連結計算書類は、会社計算規則附則 (平成21年法務省令第46号) 第3条第1項の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準 (以下「米国会計原則」という) による用語、様式及び作成方法に準拠して作成しております。但し、同項の規定に準拠して、「米国会計原則」により要請される記載及び注記の一部を省略しております。

#### 2) たな卸資産の評価方法及び評価基準 主として総平均法による低価法

### 3) 有価証券の評価方法及び評価基準

「財務会計基準審議会（FASB）会計基準書（ASC）320（投資－負債証券及び持分証券）」（旧FASB基準書第115号「特定の負債証券及び持分証券への投資の会計処理」）を適用しております。

当社グループは、保有する全ての債券及び株式を売却可能有価証券に分類して公正価値で評価するとともに、関連する未実現評価損益を税効果考慮後で資本の部に独立表示しております。有価証券売却損益は移動平均法に基づいて算出し、公正価値の算定が困難な非上場株式等については、移動平均法による原価法により評価しております。

### 4) 有形固定資産の減価償却方法 主として定率法

### 5) のれん及びその他の無形資産

当社グループは、「ASC350（のれん及び無形資産）」（旧FASB基準書第142号「のれん及びその他の無形資産」）を適用しております。同会計基準書に従い、のれんは償却を行わず、代わりに少なくとも年1回の減損テストを行っております。耐用年数の見積可能な無形資産については、その見積耐用年数に亘って償却されます。また、同会計基準書は、耐用年数を見積もることができない無形資産は償却を行わず、代わりに耐用年数が明らかになるまで減損テストを行うことを要求しております。

### 6) 退職給付引当金

「ASC715（報酬－退職給付）」（旧FASB基準書第87号「事業主の年金会計」及び旧FASB基準書第158号「給付建年金及び他の退職後給付制度に関する雇用主の会計処理－FASB基準書第87、88、106号及び第132号(R)の改訂－」）に準拠し、従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額及び年金資産の公正価値に基づき計上しております。なお、確定退職後給付制度の積立超過又は積立不足の状態を連結貸借対照表で認識し、その他の包括利益（△損失）累計額で調整しております。

過去勤務債務は、発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、予測給付債務と年金資産のいずれか多い額の1割を超える差異金額を5年による定額法により費用処理しております。

### 7) 消費税等の会計処理は税抜方式によりしております。

## 4. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項の変更

- 1) 当期より「ASC105（一般に公正妥当と認められる企業会計の基準）」（旧FASB基準書第168号「FASB会計基準書及び一般に公正妥当と認められる企業会計の基準のヒエラルキー－FASB基準書第162号の置換」）を適用しております。これに基づき、従来のFASB基準書等をFASB会計基準書（ASC）に置き換えて記載しております。同会計基準書の適用による、当社グループの連結計算書類に与える影響はありません。

2) 従来は満期日を考慮せず、売却可能有価証券に分類されるすべての債券を流動資産に分類しておりましたが、債券の満期日に応じて連結計算書類上表示した方がより明確であるため、当期より、満期日が1年超の売却可能有価証券について、1年以内に売却する予定があるものを除いて、投資有価証券に区分を変更しております。この変更は、「ASC250（会計上の変更及び誤謬の訂正）」（旧FASB基準書第154号「会計上の変更及び誤謬の訂正－会計原則審議会（APB）意見書第20号及びFASB基準書第3号の置換－」）に従い、会計方針の変更として取り扱われます。当該変更による、当社グループの損益及び1株当たり利益に与える影響、並びに期首累積的影響はありません。

当該変更により、債券のうち197,375百万円が投資有価証券に分類されており、これに伴い繰延税金資産・負債の相殺前の繰延税金資産のうち452百万円が繰延税金資産（流動）から繰延税金資産（固定）に、繰延税金負債のうち879百万円が繰延税金負債（流動）から繰延税金負債（固定）に分類されております。

(連結貸借対照表注記事項)

- 記載金額は百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。
- 手形割引高 338百万円

(有価証券及び投資有価証券)

売却可能有価証券の種類別の取得原価又は償却原価、未実現利益、未実現損失及び公正価値は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

種 類	取得原価又は 償 却 原 価	未 実 現 利 益	未 実 現 損 失	公 正 価 値
政 府 債	4,528	61	—	4,589
民 間 債	223,922	2,249	592	225,579
株 式	5,275	3,574	—	8,849
投 資 信 託	600	10	—	610
合 計	234,325	5,894	592	239,627

原価法により評価される公正価値の算定が困難な非上場株式等は1,124百万円であります。1,118百万円については公正価値に重大な悪影響を及ぼす事象や環境の変化が生じていないこと、また公正価値の見積が実務上困難であったことから、減損の評価を行っておりません。

売却可能有価証券（政府債及び民間債）の公正価値の満期日別内訳は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

期 日	売却可能有価証券 （政府債及び民間債）
1 年 以 内	32,793
1 年 超 5 年 以 内	196,387
5 年 超	988
合 計	230,168

売却可能有価証券の売却額、実現利益及び実現損失は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

	金 額
売 却 額	—
実 現 利 益	—
実 現 損 失	—

#### （金融商品及びリスクの集中）

通常の業務の過程において、当社グループはさまざまな種類の金融資産及び負債を計上しております。同時に当社グループは外国為替の変動リスクを軽減する目的で外国為替予約契約を結んでおります。

##### 1. 資産及び負債

1) 現金及び預金、短期投資、受取手形、売掛金、短期借入金、支払手形、買掛金及び長期債務  
これらの金融商品の公正価値は、連結貸借対照表計上額とほぼ等しくなっております。

##### 2) 有価証券及び投資有価証券

公正価値は主として取引所時価もしくは類似条件の商品の直近の市場金利を使用した割引現在価値を用いております。有価証券及び投資有価証券の公正価値は（有価証券及び投資有価証券）に記載しております。

##### 3) その他の固定資産

公正価値は主として同一もしくは類似商品の取引相場等に基づいて計算されております。その他の固定資産の公正価値は37,786百万円であり、対応する帳簿価額は37,772百万円であります。

## 2. 先物為替予約

当社グループは、原則として6か月以内に発生すると思われる売上・仕入取引、外貨建資産・負債の一定割合について、外国為替相場の変動による市場リスクをヘッジする目的で先物為替予約を行っており、キャッシュ・フローヘッジとして設定しております。

当社は海外連結子会社への売上を主に円建てでおこなっており、海外連結子会社は円建て仕入に対する先物為替予約をおこなっております。公正価値の変動額は、その他の包括利益（△損失）累計額の増減として報告しております。当該金額はヘッジ対象が損益に影響を与える時点でその他の収益（△費用）として連結損益計算書に計上されます。当連結会計年度末にその他の包括利益（△損失）累計額に計上された金額は6か月以内に損益に組替えられる見込みであります。

契約相手先は大規模な金融機関であるため、信用リスクはほとんど存在しておりません。また、契約相手先の債務不履行は予想されておりません。

先物為替予約は、ヘッジ対象である外貨建債権・債務及び外貨建予定取引等に係る外国為替相場の変動の影響と相殺され、ヘッジ効果を実現しております。

ヘッジ指定の為替予約契約額は39,517百万円であります。ヘッジ指定の先物為替予約の公正価値は、以下のとおりであります。なお、ヘッジ指定外の先物為替予約はありません。

(単位：百万円)

	資 産		負 債	
	科 目	公 正 価 値	科 目	公 正 価 値
先 物 為 替 予 約	前払費用及びその他の流動資産	10	未払費用及びその他の流動負債	860

## 3. 信用リスクの集中

当社グループは、全世界の電子機器市場に対して販売を行っております。

当社グループは一般的に得意先に信用供与を行っており、その営業債権の回収可能性は電子工業の状況に影響を受けます。しかしながら、当社グループは厳格な信用の供与を行っており、過去に大きな損失を経験しておりません。

(1 株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり株主資本	3,731円34銭
2. 1株当たり当期純利益	
1) 1株当たり当期純利益	115円35銭
2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益	115円35銭

# 貸借対照表

(平成22年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資 産 の 部)</b>	<b>(576,508)</b>	<b>(負 債 の 部)</b>	<b>(177,040)</b>
<b>流 動 資 産</b>	<b>212,979</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>146,276</b>
現金及び預金	65,188	支払手形	526
受取手形	1,242	買掛金	37,532
売掛金	61,957	短期借入金	91,955
有価証券	37,793	一年以内返済長期借入金	1
商品及び製品	5,861	リース債務	136
原材料及び貯蔵品	8,772	未払金	7,493
仕掛品	8,889	未払費用	7,578
短期貸付金	2,999	未払法人税等	376
一年以内回収長期貸付金	2,409	その他	675
未収金	11,307		
未収還付法人税等	532	<b>固 定 負 債</b>	<b>30,764</b>
繰延税金資産	4,553	長期借入金	11
その他の	1,482	リース債務	240
貸倒引当金	△9	退職給付引当金	30,243
		その他	269
<b>固 定 資 産</b>	<b>363,529</b>		
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>71,008</b>	<b>(純 資 産 の 部)</b>	<b>(399,467)</b>
建物	28,701	<b>株 主 資 本</b>	<b>396,388</b>
構築物	2,945	<b>資 本 金</b>	<b>69,376</b>
機械及び装置	14,132	<b>資 本 剰 余 金</b>	<b>107,726</b>
車両運搬具	26	資本準備金	107,666
工具、器具及び備品	4,693	その他資本剰余金	60
土地	17,489	<b>利 益 剰 余 金</b>	<b>267,359</b>
建設仮勘定	3,019	利益準備金	7,899
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>23,856</b>	その他利益剰余金	259,459
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>268,665</b>	土地圧縮積立金	11
投資有価証券	207,423	特別償却準備金	423
関係会社株式	17,108	買換資産圧縮積立金	3
関係会社出資金	18,633	別途積立金	162,707
長期貸付金	7,588	繰越利益剰余金	96,312
繰延税金資産	12,185	<b>自 己 株 式</b>	<b>△48,073</b>
その他の	6,630	評価・換算差額等	3,079
貸倒引当金	△905	その他有価証券評価差額金	3,079
<b>合 計</b>	<b>576,508</b>	<b>合 計</b>	<b>576,508</b>

# 損 益 計 算 書

(自 平成21年 4月 1日)  
(至 平成22年 3月 31日)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売 上 高		459,357
売 上 原 価		382,042
売 上 総 利 益		77,314
販売費及び一般管理費		69,234
営 業 利 益		8,080
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	3,093	
受 取 配 当 金	8,921	
雑 収 入	1,527	13,542
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	355	
固 定 資 産 除 売 却 損	385	
雑 損 失	2,283	3,024
経 常 利 益		18,598
税 引 前 当 期 純 利 益		18,598
法人税、住民税及び事業税	777	
法 人 税 等 調 整 額	1,509	2,286
当 期 純 利 益		16,311

## 株主資本等変動計算書

(自 平成21年4月1日  
至 平成22年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本												
	資本金	資本剰余金			利益剰余金							自己株式	株主資本 合計
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金					利益 剰余金 合計		
						土地 圧縮 積立金	特別 償却 準備金	買換資 産圧縮 積立金	別途 積立金	繰越 利益 剰余金			
平成21年3月31日 残高	69,376	107,666	60	107,726	7,899	11	636	3	162,707	98,031	269,291	△48,059	398,334
当期中の変動額													
剰余金の配当										△18,243	△18,243		△18,243
当期純利益										16,311	16,311		16,311
自己株式の取得												△14	△14
特別償却準備金の取崩							△306			306	-		-
特別償却準備金の積立							93			△93	-		-
株主資本以外の項目の 当期中の変動額(純額)													
当期中の変動額合計	-	-	-	-	-	-	△212	-	-	△1,719	△1,931	△14	△1,946
平成22年3月31日 残高	69,376	107,666	60	107,726	7,899	11	423	3	162,707	96,312	267,359	△48,073	396,388

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成21年3月31日 残高	492	492	398,826
当期中の変動額			
剰余金の配当			△18,243
当期純利益			16,311
自己株式の取得			△14
特別償却準備金の取崩			-
特別償却準備金の積立			-
株主資本以外の項目の 当期中の変動額(純額)	2,587	2,587	2,587
当期中の変動額合計	2,587	2,587	641
平成22年3月31日 残高	3,079	3,079	399,467

## 個 別 注 記 表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### 1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

#### 2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

移動平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

製品、仕掛品

総平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料及び貯蔵品

総平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### 1) 有形固定資産

定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10～50年

機械及び装置 4～8年

#### 2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (3～10年) に基づく定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### 1) 貸倒引当金

売掛金、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### 2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により費用処理しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理することとしております。

### 4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

#### 1) 消費税等の処理方法

税抜方式で処理しております。

#### 2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

#### 3) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額	155,339百万円
2. 関係会社に対する短期金銭債権	37,394百万円
関係会社に対する長期金銭債権	9,305百万円
関係会社に対する短期金銭債務	119,815百万円
3. 輸出手形割引高	275百万円
4. 保証債務	

(単位：百万円)

被 保 証 者	保 証 金 額	被保証債務の内容
Wuxi Murata Electronics Co., Ltd.	4,143	借 入 金
Shenzhen Murata Technology Co., Ltd.	1,358	借 入 金
そ の 他	56	借 入 金 等
合 計	5,557	

(損益計算書に関する注記)

1. 関係会社との取引	
営業取引による取引高	
売上高	306,827百万円
仕入高	364,600百万円
営業取引以外の取引高	
受取利息	328百万円
受取配当金	8,815百万円
資産譲渡高	604百万円
資産購入高	425百万円
2. 研究開発費	33,395百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当期末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 225,263,592株

2. 当期末における自己株式の種類及び数

普通株式 10,633,763株

3. 配当に関する事項

1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効 力 発 生 日
平成21年6月26日 定 時 株 主 総 会	普通株式	10,731	50	平成21年3月31日	平成21年6月29日
平成21年10月30日 取 締 役 会	普通株式	7,512	35	平成21年9月30日	平成21年12月7日

2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

平成22年6月29日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項について次のとおり提案を予定しております。

①配当金の総額 7,512百万円

②1株当たりの配当額 35円

③基 準 日 平成22年3月31日

④効 力 発 生 日 平成22年6月30日

なお、配当の原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

4. 当期末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く）の目的となる株式の種類及び数

普通株式 98,800株

(税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

1) 流動の部

繰延税金資産	未払賞与	2,022百万円	繰延税金負債	その他有価証券	
	たな卸資産	1,136百万円		評価差額金	49百万円
	未払費用	759百万円	繰延税金負債	合計	49百万円
	その他	684百万円	繰延税金資産との相殺		△49百万円
繰延税金資産	合計	4,602百万円	繰延税金負債の純額		－百万円
繰延税金負債との相殺		△49百万円			
繰延税金資産の純額		4,553百万円			

2) 固定の部

繰延税金資産	退職給付引当金	12,218百万円	繰延税金負債	その他有価証券	
	有形・無形固定資産	2,605百万円		評価差額金	1,789百万円
	関係会社出資金	1,644百万円		特別償却準備金	287百万円
	投資有価証券	941百万円		その他	10百万円
	その他	510百万円	繰延税金負債	合計	2,087百万円
繰延税金資産	小計	17,920百万円	繰延税金資産との相殺		△2,087百万円
評価性引当金		△3,647百万円	繰延税金負債の純額		－百万円
繰延税金資産	合計	14,272百万円			
繰延税金負債との相殺		△2,087百万円			
繰延税金資産の純額		12,185百万円			

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異

法定実効税率		40.4%
(調整)	受取配当金等永久差異	△20.5%
	研究開発税制等に係る税額控除	△5.9%
	その他	△1.7%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		<u>12.3%</u>

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

1) リース物件の取得原価相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得原価相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	9百万円	4百万円	4百万円
工具、器具及び備品	813百万円	580百万円	232百万円
合 計	822百万円	585百万円	237百万円

2) 未経過リース料期末残高相当額

1 年 内	142百万円
1 年 超	94百万円
合 計	237百万円

3) 支払リース料及び減価償却費相当額

支払リース料	233百万円
減価償却費相当額	233百万円

4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(注) 取得原価相当額及び未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高相当額の有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。

(関連当事者との取引に関する注記)

(単位：百万円)

属性	会社等の名称又は氏名	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	株式会社福井村田製作所	所有 直接100%	当社製品の 製造 役員の兼務	商品等の仕入 (注1)	76,064 (注2)	買掛金	4,156 (注2)
				資金の借入 利息の支払 (注3)	135,235 123	短期借入金	29,600
子会社	アスロ電子工業株式会社	所有 間接100%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	6,094 13	短期借入金	2,034
子会社	株式会社出雲村田製作所	所有 直接100%	当社製品の 製造 役員の兼務	商品等の仕入 (注1)	58,546 (注2)	買掛金	4,907 (注2)
				資金の借入 利息の支払 (注3)	45,295 8	短期借入金	7,814
子会社	株式会社イワミ村田製作所	所有 間接100%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	10,044 17	短期借入金	2,867
子会社	株式会社富山村田製作所	所有 直接100%	当社製品の 製造 役員の兼務	資金の借入 利息の支払 (注3)	38,874 41	短期借入金	11,027
子会社	株式会社ハクイ村田製作所	所有 直接100%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	21,077 26	短期借入金	6,269
子会社	株式会社氷見村田製作所	所有 間接100%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	19,825 27	短期借入金	4,334
子会社	株式会社アズミ村田製作所	所有 間接100%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	10,280 3	短期借入金	2,361
子会社	株式会社小松村田製作所	所有 直接100%	当社製品の 製造 役員の兼務	商品等の仕入 (注1)	61,531 (注2)	買掛金	983 (注2)
				資金の借入 利息の支払 (注3)	12,649 0	短期借入金	89
				資金の貸付 利息の受取 (注4)	8,085 115	短期貸付金 長期貸付金 一年以内回収 長期貸付金	1,446 3,812 1,136
子会社	株式会社ワクラ村田製作所	所有 間接100%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	9,931 5	短期借入金	1,345

属性	会社等の名称又は氏名	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	穴水電子工業株式会社	所有 間接100%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	9,029 15	短期借入金	3,109
子会社	株式会社金沢村田製作所	所有 直接100%	当社製品の 製造 役員の兼務	資金の借入 利息の支払 (注3)	21,119 1	短期借入金	459
子会社	株式会社金津村田製作所	所有 直接90.9% 間接 9.1%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	13,315 19	短期借入金	4,777
子会社	株式会社鯖江村田製作所	所有 直接100%	当社製品の 製造 役員の兼務	資金の借入 利息の支払 (注3)	13,482 2	短期借入金	45
子会社	株式会社登米村田製作所	所有 間接100%	当社製品の 製造	資金の借入 利息の支払 (注3)	19,463 5	短期借入金	4,167
子会社	株式会社岡山村田製作所	所有 直接100%	当社製品の 製造 役員の兼務	資金の借入 利息の支払 (注3)	33,203 1	短期借入金	7,109
子会社	株式会社ムラタエレクトロニクス	所有 直接100%	当社及び子 会社の製品 の販売	資金の借入 利息の支払 (注3)	35,179 9	短期借入金	3,898
子会社	株式会社大垣村田製作所	所有 直接66.6%	当社製品の 製造	資金の貸付 利息の受取 (注4)	392 49	長期貸付金 一年以内回収 長期貸付金 貸倒引当金	1,788 996 835
子会社	Murata Company L i m i t e e d	所有 直接100%	当社及び子 会社の製品 の販売	商製品等の 売上 (注1)	99,037 (注2)	売掛金	5,169 (注2)
子会社	Murata Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.	所有 間接100%	当社及び子 会社の製品 の販売	商製品等の 売上 (注1)	49,875 (注2)	売掛金	6,947 (注2)

#### 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定しております。

(注2) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(注3) 資金の借入については、市場金利を勘案して決定しております。

国内グループ会社の資金運用管理事業を当社に集約していることから、各社からの短期借入が発生しております。

(注4) 資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しております。長期貸付金の貸付期間は4～11年となっております。

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額	1,861円19銭
1株当たり当期純利益	76円00銭

(その他の注記)

退職給付会計

1) 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、基金型確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

2) 退職給付債務に関する事項（平成22年3月31日現在）

イ. 退職給付債務	60,200百万円
ロ. 年金資産	40,229百万円
ハ. 年金資産を超える退職給付債務（イーロ）	19,971百万円
ニ. 未認識数理計算上の差異	4,524百万円
ホ. 未認識過去勤務債務	△14,796百万円
ヘ. 退職給付引当金（ハーニホ）	30,243百万円

3) 退職給付費用に関する事項（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

イ. 勤務費用	3,066百万円
ロ. 利息費用	1,181百万円
ハ. 期待運用収益	△717百万円
ニ. 数理計算上の差異の費用処理額	1,596百万円
ホ. 過去勤務債務の費用処理額	△1,515百万円
ヘ. 退職給付費用（イ+ロ+ハ+ニ+ホ）	3,611百万円

4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

イ. 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
ロ. 割引率	2.2%
ハ. 期待運用収益率	2.0%
ニ. 過去勤務債務の額の処理年数	16～20年（発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により費用処理しております）
ホ. 数理計算上の差異の処理年数	5年（発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理することとしております）

# 連結計算書類に係る会計監査人の会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成22年5月11日

株式会社 村田製作所  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 田 昭 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 黒 澤 謙太郎 ㊞

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社村田製作所の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主持分計算書及び連結注記表について監査を行った。この連結計算書類の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、会社計算規則附則（平成21年法務省令第46号）第3条第1項の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（連結注記表 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項3. 1）参照）に準拠して、株式会社村田製作所及び連結子会社から成る企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 追記情報

連結計算書類作成のための基本となる重要な事項4. 2)に記載のとおり、会社は平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度より有価証券の流動・固定区分を変更した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 会計監査人の会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成22年 5月11日

株式会社 村田製作所  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石田 昭 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 黒澤 謙太郎 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社村田製作所の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第74期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監査報告書

当監査役会は、平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第74期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、当期の監査の方針・計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、当期の監査の方針・計画等に従い、取締役、執行役員、子会社取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役、執行役員、子会社取締役、内部監査室その他の使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社、事業所、営業所及び子会社において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況を監視及び検証いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主持分計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成22年5月18日

株式会社村田製作所 監査役会

常 勤 監 査 役 中 山 素 彦 ㊟

常 勤 監 査 役 伴 野 国 三 郎 ㊟

監査役（社外監査役） 平 岡 哲 也 ㊟

監査役（社外監査役） 川 田 剛 ㊟

監査役（社外監査役） 山 田 英 暉 ㊟

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案及び参考事項

### 第1号議案 剰余金の配当の件

当社は、株主の皆様への利益還元策として、配当による成果の配分を優先的に考え、長期的な企業価値の拡大と企業体質の強化を図りながら、1株当たり利益を増加させることにより配当の安定的な増加に努めることを基本方針としております。

この方針に基づき、連結ベースでの業績と配当性向並びに内部留保の蓄積などを総合的に勘案し、当期の期末配当金は1株につき35円といたしたいと存じます。これにより、中間配当金を含めた当期の年間配当金は、1株につき70円となります。

#### 1. 配当財産の種類

金銭

#### 2. 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金35円 総額7,512,044,015円

#### 3. 剰余金の配当が効力を生じる日

平成22年6月30日

## 第2号議案 取締役2名選任の件

現在の取締役8名のうち藤田能孝、荒井晴市、吉原寛章（社外取締役）の3氏は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、社外取締役1名を含む取締役2名を選任いたしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
1	ふじ た よし たか 藤田能孝 (昭和27年1月27日)	昭和50年4月 当社入社 平成10年6月 当社取締役 平成12年6月 当社執行役員 平成15年6月 当社上席常務執行役員 平成17年6月 当社専務執行役員 平成20年6月 当社取締役副社長（現任） 当社代表取締役（現任）  (重要な兼職の状況) Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd. <small>ダイレクター</small> Murata (China) Investment Co., Ltd. <small>董事長</small>	2,000株
2	よし はら ひろ あき 吉原寛章 (昭和32年2月9日)	昭和53年11月 ピートマーウィックミッチェル会計事務所（現あずさ監査法人）入所 平成8年7月 KPMG LLP パシフィックリム関連事業部門 マネージングパートナー 平成9年10月 同社取締役 平成15年10月 KPMGインターナショナル 副会長兼グローバルマネージングパートナー 平成20年4月 一橋大学大学院国際企業戦略研究科特任教授 平成20年6月 当社取締役（現任） 平成20年9月 Hitachi Global Storage Technologies Netherlands B.V. マネージングダイレクター （現任）  (重要な兼職の状況) Hitachi Global Storage Technologies Netherlands B.V. マネージングダイレクター	0株

(注) 1. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

2. 吉原寛章氏は、社外取締役候補者であります。

3. 社外取締役候補者に関する特記事項は以下のとおりであります。
- (1) 社外取締役候補者の選任理由  
グローバル企業への豊富なコンサルティング経験と会計の専門家としての高い見識を当社の経営に活かすため、社外取締役として吉原寛章氏の選任をお願いするものであります。
  - (2) 社外取締役候補者が社外取締役に就任してからの年数  
吉原寛章氏は平成20年6月より当社の社外取締役に就任しており、その在任期間は、本定時株主総会終結の時をもって2年であります。
  - (3) 社外取締役との責任限定契約締結  
当社は、吉原寛章氏との間で責任限度額を会社法第425条第1項に定める最低責任限度額相当額とする責任限定契約を締結しております。同氏の再任が承認された場合、当社は同氏との間の上記責任限定契約を継続する予定であります。
4. 当社は、吉原寛章氏を東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

### 第3号議案 監査役1名選任の件

現在の監査役5名のうち川田 剛氏は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査役1名を選任いたしたいと存じます。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

氏 名 (生年月日)	略歴、地位及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
とよ だ まさ かず 豊 田 正 和 (昭和24年6月28日)	昭和48年4月 通商産業省入省 平成11年8月 通商政策局国際経済部長 平成15年8月 商務情報政策局長 平成18年7月 通商政策局長 平成19年7月 経済産業審議官 平成20年8月 内閣官房宇宙開発戦略本部 事務局長 (現任) 経済産業省 顧問 (現任) 平成20年11月 内閣官房参与 (地球温暖化問題担当) (現任) (重要な兼職の状況) 内閣官房宇宙開発戦略本部 事務局長 経済産業省 顧問 内閣官房参与 (地球温暖化問題担当)	0株

- (注) 1. 監査役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 豊田正和氏は、社外監査役候補者であります。
3. 社外監査役候補者に関する特記事項は以下のとおりであります。
- (1) 社外監査役候補者の選任理由  
経済、国際貿易分野での高い見識と豊富な経験を当社の監査に反映していただくため、社外監査役として豊田正和氏の選任をお願いするものであります。
- (2) 社外監査役との責任限定契約締結  
豊田正和氏の選任が承認された場合、当社は、同氏との間で責任限度額を会社法第425条第1項に定める最低責任限度額相当額とする責任限定契約を締結する予定であります。
4. 豊田正和氏の選任が承認されることを前提として、当社は同氏を東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

以 上

## 用語解説

### ■コンデンサ（P 3、P 5、P 13）

コンデンサは電気を蓄える働きをし、電源の電圧変動を吸収し電子機器の安定動作に貢献する役割を担う部品です。携帯電話、パソコン、デジタル家電など、多くの電子機器に使われています。

### ■フィルタ（表面波／セラミック／EMI除去）（P 6）

コーヒーのフィルタでイメージできるように、必要な信号だけを通し、不要な信号を通さない働きをします。セラミックフィルタ、表面波フィルタは特定の信号だけを通す役割をし、EMI除去フィルタは信号に含まれるノイズ(EMI = Electromagnetic Interference)を除去して電子回路を守ります。

### ■セラミック発振子（P 6）

電子機器にはプロセッサやマイコンなどのデジタルICが多数使われていますが、デジタル信号処理を正しく動作させるためには、その「テンポ」を制御する「基準クロック信号」というものがが必要です。セラミック発振子は、圧電セラミックスの圧電現象（電圧を加えると伸縮し、物理的な力を加えると電圧を発生する）を利用し、基準クロック信号を発生させる電子部品です。

### ■燃料噴射用アクチュエータ（積層圧電アクチュエータ）（P 6）

電圧を加えることで、伸び縮みする圧電セラミックスの性質を応用したデバイス。クリーンディーゼルエンジンの燃料噴射制御に使われています。高速応答性に優れ、二酸化炭素排出量の削減、燃費向上に貢献しています。

### ■アイソレータ（P 6）

電気信号を一方方向のみに伝送する機能を持つ電子部品です。携帯電話の送信回路などに使用され、通信の安定化に役立っています。

### ■多層デバイス（P 7）

従来は1枚の基板上に多数の部品を実装して構成していた回路を、セラミックシートを何層も重ねて形成した多層セラミックスの内部に3次元で回路を構成し、部品の機能を作り込むことによって、圧倒的な小型化を実現したモジュール電子部品です。

— MEMO —

A series of 25 horizontal dashed lines for writing.

— MEMO —

A series of 25 horizontal dashed lines for writing.

